2021年度 第3回常務理事会議事録

開催日時：2021年12月5日（日）10:00～12:20

場所：ZOOMによるオンライン開催

出席者：福田会長、納口副会長、木南副会長、伊藤副会長、近藤副会長、八木会長補佐常務理事、鈴木総務担当常務理事、杉田学会賞・国内学術交流担当常務理事、保永情報担当常務理事、作山和文誌編集担当常務理事、中谷英文誌編集担当常務理事、金田企画担当常務理事、加治佐国際担当常務理事、淡路開催校担当常務理事、川村東北地区担当常務理事、平泉北陸地区担当常務理事、多田近畿地区担当常務理事、新保四国地区担当常務理事、事務局（共立）：齋藤、諏訪（順不同）

欠席者：関司財務担当常務理事、黒瀧北海道地区担当常務理事、榎平中部地区担当常務理事、大仲中国地区担当常務理事、西九州地区担当常務理事

議事メモ作成：鈴木

議題1. 会長挨拶

○福田会長より挨拶があった。

議題2. 2022年度龍谷大学大会について

1. 大会の持ち方について（企画）【資料2-1】

○木南副会長より2022年度大会については、既にオンライン開催ということが決まっております。10月29日に会員向けに告知済。大会特設サイトも先日12月1日に開設したところ。大会シンポジウム、国際シンポジウム、ワークショップ、個別報告などを行うこととなっている。

○2日目の昼開催を予定しているワークショップについては、先日、立命館大学の新山先生よりご提案のあったもので、若手研究者の育成をテーマとするものである（企画内容については資料2-1別紙に記載）。学会の企画担当でこれまで対応させていただいており、事務的な支援は行っていくが、表向き連携委員会主体の開催とさせていただきたい。

○大会シンポジウムの事前打ち合わせについては、第2回会議までを既に行っている。2月に第3回会議を予定している。

（2）大会の準備状況（大会開催校）【資料2-2】

○淡路開催校担当常務理事より大会の準備状況について説明があった。オンライン開催となることが決定したため教室変更などを行った。正式には大学側からの許可待ちの状態だが、オンライン開催となったことから許可される見込となっている。

○PCの確保について大学の担当部署に申し入れたが、教育以外の目的のため拒否された。従って、PCは外部からレンタルの予定。業者の情報収集をしており、年内にスペック等を決定する予定としている。

八木会長補佐常務理事 シンポジウム関係者のみなら入構可という理解でよいか。

淡路開催校担当常務理事 そうということになると思う。

納口副会長 レンタルPCについてであるが、何台くらい必要で、金額は概ねいくらくらいになると想定されているか。

淡路開催校担当常務理事 茨城大会の際は8台が必要で、12~13万円だったと伺っている。まだ見積もりが取れていないので、詳細は分からないが、10数万円程度ではないかと思っている。

(3) 2023, 2024 年度開催校について (企画) 【資料 2-3】

○木南副会長より説明があった。2023 年度は青山学院大学で行われ、アジア農業経済学会との共同開催になる。実行委員会は、現時点で加治佐国際担当常務理事、中谷英文誌編集委員長、下川英文誌編集委員、国際担当副会長、企画担当副会長である。年度が替わった段階で、国際担当副会長、企画担当副会長については引き継ぎを行う予定。現在業者選定を進めているところ。

○2014 年度大会開催校については、2021 年 11 月 2 日に東北大学より受諾の回答があったところ。 →了承された。

議題 3. 各担当の業務について

(1) 総務【資料 3-1】

○納口副会長より資料に基づき説明があった。諸会議の開催状況について資料 3-1 の通りの通り報告があった。

○総会の方法については昨年と同様、メール審議を前提に予算立てをする。会費納入者のうちメールが届かない会員には郵送手配を取る。議決の方法については Google form を用いて投票を行う。議決結果の確認は総務担当副会長、会長補佐常務理事、総務担当常務理事の3名で相互確認を行う予定。

○次期役員を選出については、鈴木総務担当常務理事より説明があった。常務理事の後任者については各地区等で協議の上内諾を取っていただき、12 月末日までに鈴木総務担当常務理事までご連絡いただきたい。

○次期総務担当常務理事について、第 1 回関東地区理事会において日本大学の小野洋会員の推薦が決定した。 →了承された。

○新たな総務担当常務理事の選出に関する規程の改正について八木会長補佐常務理事より説明があった。次期総務担当常務理事の推薦手順について、「関東地区理事会からの推薦」という現状の文言を、「地区ブロック理事会からの推薦」と改めたい(資料4参照)。 →了承された。

○倫理問題への対応について、納口副会長より「倫理綱領および倫理委員会規程」(資料 3-1 別紙 1) について説明があった。今回の提案内容は 2021 年 7 月に開催された第 1 回常務理事会における指摘、11 月に開催された正副会長会議における指摘等を踏まえて修正したもの。本日は承が得られれば、今後は理事会、総会にかけていく予定。

○倫理委員会規程の第 3 条の委員会立ち上げに関する文言、第 5 条の検討結果の報告に関する文言、第 6 条の任期に関する文言を加筆した。また第 9 条の倫理委員会の改正については、理事会決定かつ総会報告事項とすることとした。

作山和文誌編集担当常務理事 学会の各種規程は「第〇条」という書き方になっているの

で修正されてはどうか。

納口副会長 ご指摘の通り修正をしたい。また、倫理綱領・行動規範の末尾に「倫理委員会」と別記されている部分については、前条に続けて、第11条、第12条と修正したい。
→ 原案を一部修正の上、了承された。

1) 情報【資料 3-1-1】

○保永情報担当常務理事より資料 3-1-1 に基づき報告があった。審議事項として EBSCO 社の EBSCOhost への論文収録の依頼の是非について提起があった。また、J-STAGE への登載（第93巻第1号および第2号）の報告があった。

○EBSCOhost については、費用は発生しない。論文タイトルのみならず PDF ファイルの形で全文掲載されることになる。ロイヤリティは多少発生することだが、煩雑になるので受け取り辞退の学会が多く、本学会もその方向で考えたい。認証がかかっている最新号については掲載しない。

中谷英文誌編集担当常務理事 この EBSCOhost は英文誌も対象となるのか。

保永情報担当常務理事 英文誌も対象になると考えている。

八木会長補佐常務理事 過去の論文集を別冊扱いなどで含めてもらうことはできないか。

保永情報担当常務理事 刊行終了している雑誌については収録しないとのことだが、別冊扱いが可能かどうかという点については EBSCO 社に確認してみたいと思う。

2) 財務（情報）【資料 3-1-2】

○納口副会長より資料 3-1-2 に基づき報告があった。審議事項は次の3点。①2022年度予算案については、常務理事会と編集委員会の予算について、会議体の開催方法についてリモート会議を基調とする方針を踏襲したい。②2020年度の黒字金額約126万円の半額を上限として、2000～2014年報告論文集の学会 HP への掲載および農業経済研究バックナンバーの J-STAGE 登載を進める。③2022年度予算の大会費として、オンライン開催に必要となる PC レンタルが可能な水準を確保する。

保永情報担当常務理事 PDF の HP 掲載については、本日承認いただければ1月末の会計年度内に PDF 作成は間に合う予定。また、バックナンバーの J-STAGE 登載は第61巻が対象となると思うが、こちらも1月までに、納口副会長が示された黒字金額の半額という範囲内で行うことは可能である。

→ 了承された。

3) 学会賞・国内学術交流【資料 3-1-3】

○杉田学会賞・国内学術交流担当常務理事より、資料 3-1-3 に基づき報告があった。学会賞については奨励賞の応募が1件あるので延長はないと思われる。学術交流に関しては、農業経済学関連学会協議会、編集委員長会議が3月の大会終了後に行われる予定。

○学会賞関係の規程類の改正については、学会賞表彰規程については、学術賞・奨励賞選考委員会の選任規定の部分で選出範囲が「理事」となっていたものを「原則として理事または理事経験者」と、範囲を広げる変更したい。また、人数のカウントの仕方について副会長を除く書き方に統一するため「5名」と変更したい。

○学術賞・奨励賞選考細則については、選考規定を改正することに伴い、第 1 条の「理事の中から 5 名を選んで」とされている部分を「学会賞表彰規程に基づき」と改めたい。
→了承された。

(2) 編集 (和文誌, 英文誌) 【資料 3-2】

- 和文誌の審査・掲載状況について作山和文誌編集担当常務理事より報告があった。今年度分の投稿投稿数は 7 篇で、うち 6 篇が審査中。報告論文は投稿された 42 篇のうち採択された 29 篇について、今年の 12 月号、2022 年 3 月号、6 月号に随時掲載の予定。
- 大会個別報告申込要領については、個別報告と特別セッションで 2 報告を行った場合でも投稿は (和文誌、英文誌含めて) 1 報告のみと整理し、次回から要領に明記する。
- 中谷英文誌編集担当常務理事より資料 3-3 に基づいて、JJAE の審査状況、編集委員会の開催状況についてそれぞれ報告があった。学会誌賞受賞論文については、和文誌の英文要旨を載せることとなった。
- 二重投稿や剽窃防止等を目的として投稿規定の改定準備を進めていたが、当面は現行規程の範囲内で対応することとした。

(3) 国際【資料 3-3】

- 伊藤副会長より、資料 3-3 に基づいて報告があった。2023 年度の青山学院大学で行われる日本農業経済学会および第 11 回アジア農経学会の共同開催大会については実行委員会を設置したところ。来年度以降はこの実行委員会の拡充を考えている。また、運営会社を年内に入札により決定する予定である。加治佐先生から補足があればお願いしたい。
加治佐国際担当常務理事 見積もりを複数の会社から出してもらっており、事務的な確認などを行っているところである。
- 2023 年度の日本農経学会は現在のところ対面を前提に予算が作られているが、コロナの状況によってはオンラインやハイブリッドも考えられる。そうすると予算規模も大きく動くことになる。第 11 回アジア農経学会については特別会計として 1,400 万円が入ってくるのでオンライン開催であれば問題ないと思われる。オンラインか対面かということについては次期執行部に考えてもらうことになる。
- 2022 年度の日本農業経済学会国際シンポについては、資料 3-3 の通り実施予定である。テーマは 2 年前からの持ち越しのテーマを掲げて行う予定。
- 第 10 回アジア農経学会 (北京大会) は、学会 HP にて情報提供を既に行っている。皆様の積極的な参加をお願いしたい。今回はハイブリッドになったため 50 万円の予算となっていた拠出金を 25 万円に減額したい。この点は審議をお願いしたい。
- 日韓学術交流については、協定の内容は昨年段階で決まっている。対面での調印式を 7 月に予定していたが延期。今後の予定は未定。
加治佐国際担当常務理事 これまで国際農業経済学会が 50 万円、アジア農業経済学会が 10 万円という補助金額の慣例がある。ただ、同じ国際大会なので、どちらも 50 万円にするという決定が前々期に決定した。それがオンラインになったため今回半額の 25 万円という提案になった。
→ 25 万円に減額ということでした。

(4) 連携【資料 3-4】

- 八木会長補佐常務理事より資料 3-4 に基づき説明があった。既に議題 2 で取り上げた通り、2022 年度大会時のミニ・ワークショップについて連携委員会がコミットすることとなった。座長は新山名誉会員。挨拶は連携委員長である福田会長が行い、連携委員がワークショップに参加することとなる。

(5) その他

議題 4. 規程類の改正について（資料）【資料 4】

- これまでの議題において既に審議済。

【八木会長補佐常務理事より事務連絡】

- 次期理事の推薦をお願いしたい。
- 3 月の理事会、総会へのご協力をお願いしたい。

以 上